

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原中川原28番地  
 TEL:0799-25-8550  
 FAX:0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

「国は上告断念を」この一点で3月4日12時から緊急院内集  
 会が参議院議員会館で開かれました。優生保護法による被害  
 は「戦後最大の人権侵害」とする国賠訴訟。2月22日の大阪  
 高裁は除斥期間の一律機械的な適用を否定しました。この判  
 決を受け、被害者などが国に対する上訴断念を社会と国会議  
 員に働きかけたものです。



## 102歳 後しめの様 お誕生日おめでとうございます



▲狭間施設長よりプレゼントを受け取るしめの様 (左より2番目)

3月2日の誕生日でふくろうの郷入居者最高齢の後しめのさんが満102歳を迎えられました。毎月開催している誕生日会で、入居者・職員とお祝いすることができました。体調を崩されるこ

ともありますが、これからも共に過ごす時間を大切に、日々、暮らしを積み重ねていきたいと思っています。  
 (生活援助係 川満 和則)

後しめの様 (大正9年3月10日生まれ) 洲本市五色町生誕。  
 負けず嫌いできっちりとした性格で、好き嫌いもはっきりしている方です。未就学でしたが仕事は線香の包装やお米・野菜などを作られていました。

### コロナワクチン接種3回目 (2月9日・10日)



コロナワクチン接種3回目については、1、2回目同様、協力病院である洲本伊月病院より医師・看護師がふくろうの郷まで出向いてくださり、入居者の方々の接種を無事に終えることができました。  
 新型コロナウイルスの感染拡大により「まん延防止等重点措置」が3月21日まで延長となりました。引き続き入居者・職員一丸となって感染予防に努めてまいります。

各ユニットで恵方巻を作りました。調理職員が準備してくれた酢飯・食材をのせて自分で巻き、かぶりつく入居者もいれば、のりを薄焼き卵に変える人、職員が手伝いながら巻き、食べやすい大きさに切り分けて食べる人。みなさん自分なりの恵方巻ができました。

謹んでお悔やみ  
 申し上げます

淡路ふくろうの郷の建設運動を指導され、当法人創設時から理事としても多大な貢献をされた須磨喜三郎様 (87歳) が2月12日にご逝去されました。故人の功績を称え、ご冥福をお祈りします。



# ふくろう物語 高木 妙子様

昭和15年8月9日生まれの81歳。8人兄弟の5番目として島根県で生まれました。

私と一番下の弟は生まれつき耳が聞こえませんでした。両親や兄妹とはコミュニケーションがとりづらく、何を話しているのかわからずもどかしい思いで過ごしていましたが大きくなるにつれ筆談で簡単な内容であれば話ができるようになりました。

## 仲間(ろう者)との出会い

地元の小学校に入学しまし



念撮影  
(平成30年)

▲金婚式を祝してご夫妻で記念撮影

大阪のメリアス工場で働き、その後、父の知人の紹介で神戸市の会社で勤めるようになりました。

たが授業についていけず、両親の意向で8歳頃にろう学校に入りなおすことになりました。ろう学校は、家から遠かったため、寄宿舎で生活していました。当時のろう学校は、口話教育が主流で、手話で話すことを禁止されており、授業はわからなかつたけど、寄宿舎で先輩から手話や色々な情報を得ることができました。

## 神戸で伴侶との出会い

賢夫さんとは、神戸ろうあ協会に入会し、ろうあ運動に邁進される中で、お互いに魅力あい交際するようになりました。昭和43年に結婚。賢夫さんははじめで尊敬できる人であったと妙子さん。

夫の実家で生活していたが、市営住宅が当選し西区へと転居。その後、西区聴覚障害者協会婦人部の立上げに携わりました。

手話奉仕員養成講座を開講、講師として聴覚障害者への理解や、手話の普及、手話サークルにも積極的に参加し交流を図りました。また、ヘルパーの資格を取り、同業者への支援、長年、神戸ろうあ協会の会計部長として活動し、夜、遅くまで会議があり、帰りの電車でうとうとして、気づけば終点まで乗り越してしまふこともしばしばありました。

## 当時の活動を振り返り

妙子さんより

ろうあ協会とヘルパー等の活動の中で、運転免許がないと不便であることを痛感され、50歳の時に一念発起され運転免許を取得し、更に活動の幅を広げられました。

ご友人達からは、自ら旅行会社のツアーを手配して、わからない事はツアー参加者から聞き取りで教えてもらって筆談や身振りで教えてもらっていたことが、バイタリティがありすごいなと感心されていました。

認知症の進行に伴い、独居生活が困難となり令和3年3月にふくろうの郷に入居。ふくろう大学の各講座に参加され、他の入居者と笑顔で話をきとされています。

海外旅行に行かれた時の写真を見ても、妙子さんに話を聞くと、「主人は、写真が好きだったので沢山写真が残っている。お金があまりないので、時々しか行けなかつたよ」と謙遜されながら話してくれました。

残念ながら旦那様はご病気で令和2年11月になくなられましたが、とても仲が良いご夫婦であった様子が伺えます。

昔ヘルパーをされていたこともあり、他の入居者が気にかかりお世話をしようとしてくださる場面が沢山あります。

妙子さんの意思を尊重しながら寄り添った支援ができるよううたいたいです。

(生活援助係 酒井裕子)



▲ユニット共有スペースのソファでいつもティータイムや手話でのおしゃべりを楽しまれています

# 支援の締めくくいを考える

## 故・竹邊正晴様のお兄様との面会を通して

竹邊正晴様が逝去され、早3カ月が過ぎました。1月28日に正晴様の遺骨が眠っている、神戸市灘区の博文様（お兄様）のお住まいに訪問させて頂きました。

正晴様の面影が感じられる博文様は、我々の訪問に何度も感謝して下さい、「正晴は無断で病院を抜けだし、家に帰ってきていた。その度に、病院まで連れていった。」「正晴はみんなから慕われていた。良かった。」と話されました。ふくろうまなびあ

（生活援助係 鈴木 晃司）



▶ 笑顔で出迎えて下さる博文様

# 全国手話検定試験2級を受けて

2月20日第16回全国手話検定試験が淡路ふくろうの郷施設内で行われました。今回職員8名で手話検定試験2級に挑戦しました。試験内容は、映像を見て手話の読み取り、手話によるスピーチ、面接官との会話、筆記がありました。

読み取り問題と面接官と手話での会話は上手く出来ましたが、2級から追加された筆記試験では課題が残りました。昨今の障がい者を取り巻く社会環境や聴覚障がい者の福祉制度、ろうあ者の歴史についての問いで答えに行き詰まったのです。

他にも、手話表現でどのように手が動くのか、右手と左手の組み合わせを問うものや、今日の障がい者福祉があるのはどのような活動の結果からなのか、制度、その成り立ちを問う問題が印象に残りました。

コロナ禍になってからニュースなどのテレビで手話通訳者を見かける機会が増えたと思います。手話に興味を持った方が少しでも増えて、ともに手話を学ぶ仲間の輪が広がり、手話検定試験が盛り上がり、更に励みになると思います。

（生活援助係 神代雅司）

# 食事介助研修

新たに作成した食事介助マニュアルについて、2月22日(火)に職員に周知するための研修を行いました。食事介助は高齢者施設では欠かせない支援のひとつですが、単に食べる介助だけではなく、食前・食事中・食後の食事環境をサポートすることも重要です。日々行っている支援ではありませんが、衛生管理や適切な食事形態での提供、食べやすい姿勢を整えられているか、また何よりも入居者の皆様に快適なおいしく食事を食べていただける環境が整えられているかなど、様々な面

（食事委員 秦奈津子）

で注意するポイントを、確認しながら進めました。

# 3月・4月 ふくろうの暮らし

- 3/15(火) おのころパン販売  
ふくろう大学絵手紙講座
- 3/16(水) ふくろう喫茶
- 3/18(金) 回想法
- 3/23(水) ふくろう大学修了式
- 3/25(金) ふくろう大学料理講座  
〃 書道講座
- 3/29(火) 手話講座
- 4/ 4(月) ふくろう理髪店
- 4/ 5(火) ふくろう大学演劇講座
- 4/ 6(水) 誕生会

食事介助の正しい姿勢



1月12日(水)、森さん宅を訪問しました。センター職員  
の顔を見るとにっこり。  
「おまはんらやったんか」「な  
んも片付いてへんけどな・・・  
あがつて、あがつて」と部屋  
に招き入れられました。  
国道から逸れ、道幅の狭い  
道をずっと上がった山間の地  
です。「このあたりは不便で、  
昔は車も通れんかったし、移  
動手段はバイクだった。それ  
を、みんなで道幅を広げて車  
が通れるようにした。大変だ  
ったんよ。」と。  
夫婦で農業を営みながら、  
早朝、深夜を問わず洲本の  
ホテルに仕事に通い、子ども  
4人を育て上げました。大変  
だったけれど、子どもたちが  
元気に育ってくれるのが楽し

森はつみさん宅訪問

**淡路聴覚障害者  
センター** 便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階



▲おこのろの家で難聴の仲間と小物作りをする森さん（左端）



訪問中、娘さんから電話。  
「卵、豆腐あるかな」  
「冷蔵庫にあるわ。何にもい  
らんで・・・」「じゃあ。今日食  
べるものを買っていきわ」  
「ほんなら頼むわな・・・」  
母、娘の何気ない会話からほ  
っこりとした雰囲気を感じ  
ました。「子どもたちが病院  
への付き添いや買い物など  
をしてくれるんや」と嬉しそ

「先日運転免許証も返納し、  
行き来していた近所の人も  
少なくなってきたんや」「さ  
みしいわ・・・」とポツリ、  
ポツリつぶやく森さん。  
現在はおこのろの家に通  
って、難聴の仲間と一緒に小  
物作りをするのが楽しみに  
なっています。

寒いですね～  
困りごと  
ありませんか～

移動相談

津名地区



みでもあり、当時は苦労とも  
思わなかったなど昔の生活  
を語ってくれました。  
早くにご主人を亡くされ、  
子どもたちが巣立ったあと  
は一人の家を守り、たくまし  
く生きてきた森さんも、今は  
80歳を過ぎました。  
「先日運転免許証も返納し、  
行き来していた近所の人も  
少なくなってきたんや」「さ  
みしいわ・・・」とポツリ、  
ポツリつぶやく森さん。  
現在はおこのろの家に通  
って、難聴の仲間と一緒に小  
物作りをするのが楽しみに  
なっています。

登録通訳者研修会

兼手話通訳者養成講座

1月29日(土)日本ソーシャルワーカー協会の稲淳子氏による「ソーシャルワーク概論」について学びました。



コロナ感染防止対策し、たくさんの学びを

「楽々コミュニケーション」

(難聴者コミュニケーション訓練事業)

2月13日南あわじ市の福良公民館、2月20日洲本市総合福祉会館で開催。言語聴覚士の上田美氏より様々なコミュニケーション方法を学びました。



洲本市



南あわじ市

南あわじ市では広報を見て初参加の方もおられ、センター登録に繋がりました。

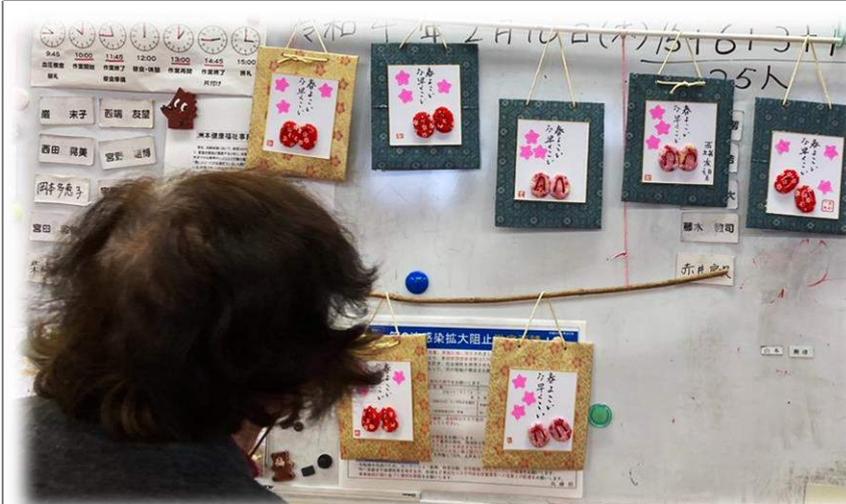


第6回社会生活教室

2月4日(金)

「SDGs」について学ぼう

手話サークルあわじ会員和田道弘さんによるお話。地球環境と社会の関わり、身近な生活の工夫の大事さについて学びました。



「春よ来い」色紙作りが  
完成しました

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



〒 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



毎月1回ボランティアの小  
林先生にお越しいただいて、  
おのころの家・デイサービスの  
の希望者でレク活動を行って  
います。

2月10日(木)、春にちなん  
だ色紙作りをしました。みん  
なで「春よ来い」の童謡を歌  
い、童心に返った気持ちで作

(おのころの家支援員  
山本)



「障害のある子どもに対す  
る障害福祉支援について」

2月28日(月)午前10時  
から12時、姫路市発達応援  
室の公認心理師 橋本美恵  
氏のWEB研修に参加しま  
した。  
主に、療育の意味や支援  
する側の関わり方について  
ご教授いただきました。

本人だけではなく、保護  
者、家族への言葉掛けや、  
経験・知識、倫理観など幅  
広く学ばせていただきました。  
これまでの相談員とし  
ての自身を振り返ると共  
に、今日の学びを活かせる  
ようにと気持ちを新たに  
しました。  
(相談支援専門員 高木)

～「ふるさと納税返礼品」購入者からの感想～

箱を開けた瞬間にたくさんのクッキーが入って  
いたので、驚きました。いろいろな味の物が入って  
いたので次は何を食べようか迷う楽しみもあります。  
個包装になってるので長い間楽しむことが出  
来ました。家族にも大好評でしたし、クッキーの味  
も美味しかったので大満足です。  
(2022/2/17：埼玉県在住)

年末に注文したため、2ヶ月位待ってやっと届き  
ました。ずっと楽しみに待っていました。クッキ  
ーは、少量ずつ包装されているので、食べきり  
でちょうどよいです。ただ、どれも似た感じのク  
ッキーなので、もう少し、それぞれに変化があると  
もっと楽しめると思いました。  
(2022/2/24：神奈川県在住)

寄付してから約2か月で届きました。とてもお  
いしいパウンドケーキです。心を込めて作られ、丁  
寧に梱包されているのが伝わってきます。15個  
とたっぷり入っているので、家族で楽しめます。ま  
た寄付したいと思います。皆さんにもおすすめし  
ます。  
(2022/2/12：埼玉県在住)

とても丁寧に包まれたパウンドケーキが届き  
ました。ズッシリとした大きめのケーキですので、食  
べ応えがあります。いろいろな珍しいお味も楽しめ  
て、あっという間になくなりました。また是非、お  
願いしたいと思います。(2022/2/25：愛媛県在住)

返礼品の総件数(2/28:現在)  
クッキーセット735件      パウンドケーキセット178件  
(管理者 橋詰)

# 神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
電話：078 798 7940  
FAX: 078 798 7941

## 2、3本はペロリ

2月5日(土)にふくろうっこ達7名で恵方巻と味噌汁を作りました。お米を5合炊きましたが、ひとり2〜3本くらいペロリ、まだ足りないという子どもがいました。上手に巻いたという子どももいました。そうではない子どもなど、それぞれの持ち味が出ていました。みそ汁の具は豆腐とわかめでしたが、豆腐を切る練習をしてほしいと思ひ全員経験することに。手のひらに乗せて緊張しながら、みんな怪我をせず、上



▲味噌汁を作る担当です。  
味噌をしっかりと溶かしていきます

手に切ることができました。

みんなで恵方巻の意味を聞いてから作って食べたので、静かに食べていない人には「静かに食べないと病気になるよ」と教えてくれた6年生もいました。



## 生きがいデイサービス

### 〈事業説明会を受けて〉

1月20日神戸市介護保険課より来年度の事業説明会がありました。変更になった点は、①「原則1部制」(今年度は感染状況により2部制選択ができた。)②今まで休止していた体力測定の実施。(神戸市から講師派遣)③介護予防講座のテーマが13から21に強化。特にフレイル(加齢による虚弱、老化)予防の観点から、運動、栄養、社会参加が必須であるとの話でした。介護予防講座の内容の充実は力を入れており、

## 建設推進委員会から

### ひとりぼっちゼロ

#### プロジェクトへ

昨年の8月3日に、皆様のご尽力のお陰で、募金目標額1億円を達成し、8月8日、達成の特別イベント「みんなあつまろう」を開催しました。建設推進委員会の募金活動も昨年9月末で一区切りを付けました。10月建設推進委員会全体会で今後のことを話し合いました。ふくろうの杜は完成はしましたが、聴覚障害

5職種の専門職の講座を開くことが必須となっています。ふくろうの杜生きがいデイサービスでも、来年度も薬剤師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士の講師を招いて介護予防講座を実施する予定です。

12月から昼食がはじまりましたが、まん延防止等重点措置が発令されて2月からは再び昼食の提供ができなくなりました。早くコロナ感染が収まり、みんなで楽しく昼食ができるようになることを願う今日この頃です。

(ふくろうの杜生きがい 木谷)

者の実態とニーズの調査から見えてきた課題で未解決のものがまだまだ残っています。今後は兵庫県内の必要とされる地域での聴覚障害者のくらしを支える拠点作りの活動を応援することを目標としていくことと合意しました。

その後、事務局会議を重ね、今年1月に「ひとりぼっちゼロプロジェクト」としてスタートしました。それまでの建設推進委員会ニュースも「ひとりぼっちゼロプロジェクトニュース」として隔月で発信してまいります。

昨年9月末時の募金総額から、杜の建設資金と建設委員会の経費を差し引いた100万円足らずの残金をプロジェクトの活動費としております。

今後、このプロジェクトに具体的な目標ができ、即動く時のためにも資金が必要となってきます。この運動を理解し応援くださる皆さまのご支援をお待ちしています。

尚、郵便局、三井住友銀行の口座は建設委員会のままです。お問い合わせは、神戸ろうあ協会、及び、神戸長田ふくろうの杜また、建設推進委員会のヤフーメールアドレスで受け付けております。宜しくお願いします。

(事務局 眞木)